

# 一般社団法人 日本寝具寝装品協会 (JBA)

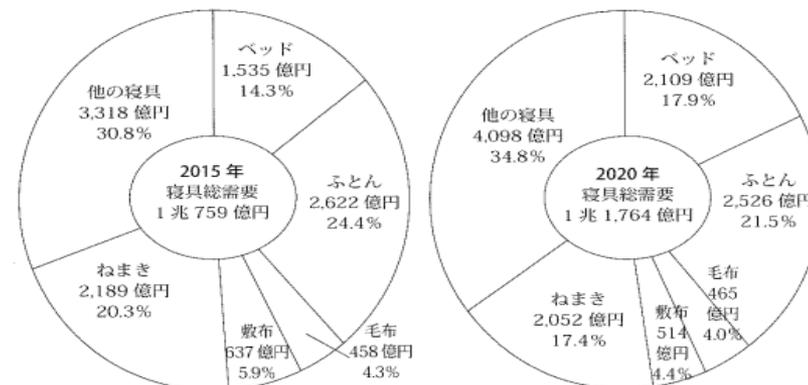


## 協会概要



日本寝具寝装品協会 (Japan Bedding Goods Association) は、日本における寝具寝装品業界の健全なる発展と国民生活の向上に寄与するために設立された一般社団法人です。

寝具の推定市場規模 5年の推移  
(業務用等を含む総需要)



寝具・寝装品市場は1兆2千億円市場

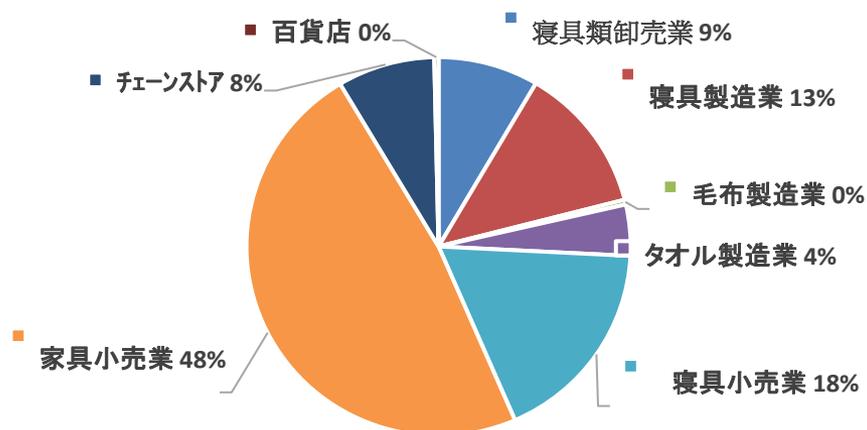
(およそ軽自動車市場とほぼ同じ)

設立年月日	平成26年12月11日
会長	西川 八一行 (やすゆき) 西
団体の性格	寝具・寝装品関連事業者
団体の扱い品目	ふとん・まくら・生地・毛布・カバーリング他
団体事業予算	4,300万円 (令和5年度)
業界団体の規模	2,500億円 (令和4年度寝具売上)
加盟会員・団体数	67社 (正会員51社、賛助会員14社)・2団体 2023年6月現在

質の高い睡眠を通じて、国民の豊かで健やかな生活に寄与する。  
安心・安全な製品・サービスと確かな情報を提供し、  
業界で働く人々と生活者の笑顔のために活動します。

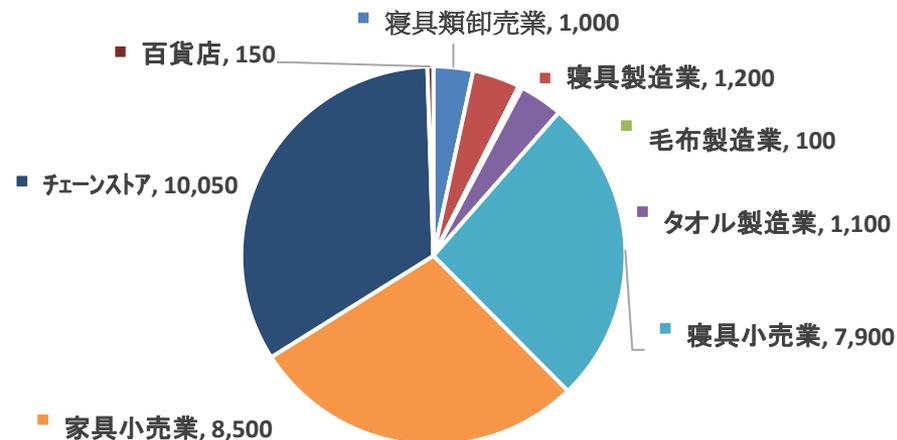
就業人口 推計  
**195,000人**

寝具寝装品(タオル含)-就業人口推計



企業(店)数 推計  
**30,000社**

寝具寝装品(タオル含)企業・店舗数推計



■一社)日本寝具寝装品協会の【目的】

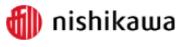
本協会は、寝具寝装品産業の振興と啓発普及活動を継続的に行い、

寝具寝装品業界の健全なる発展とともに、国民生活の向上に寄与することを目的とする。

# JBA加盟企業

## JBA会員加盟企業

正会員 企業 51社  
 正会員 団体 2社  
 賛助会員 13社  
 (25年6月現在)



西川(株)



昭和西川(株)



(株)ロマンス小衫



MNスタイル(株)



ダイトボウ(株)



東洋羽毛工業(株)



アキレス(株)



藤山(株)



カネヨウ(株)



東洋クオリティワン



(株)イノアックリピング



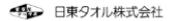
(株)高岡



中山商事(株)



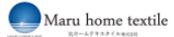
西川ロース(株)



日東タオル(株)



富士ベッド工業(株)



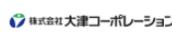
丸ホームテキスタイル(株)



メルクロス(株)



日本ムートン(株)



(株)大津コーポレーション



丸和(株)



(株)やよいディライト



KFPC JAPAN(株)



(株)ナガヤコーポレーション



(有)マルコー



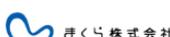
田村駒(株)



嬢理(株)



アーケムビジネスジャパン(株)



まくら(株)



(株)タキ・リピング



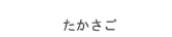
(株)北川商店



ワテックス(株)



加藤織行(株)



たかさご(株)



新川桂(株)



富士新幸株式会社



イング(株)



アヴァンス(株)



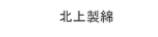
真和(株)



ニッケ商事(株)



金森(株)



(合)北上製綿



カイセイ(株)



(株)nemuli

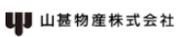


(株)GLボーロンジャパン

日織商事



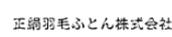
龍宮(株)



山甚物産(株)



河田フェザー(株)



正絹羽毛ふとん(株)



大和総業(株)

## JBA賛助会員

## JBA加盟団体



日本羽毛製品協同組合  
 日本羽毛製品協同組合

日本毛布商業組合

日本毛布商業組合



シキボウ(株)



大和紡績(株)



帝人フロンティア(株)



東洋紡エムシー(株)



MNインターファッション(株)



ニッシントーア岩尾(株)



(株)TOSEI



アクア(株)



全国ふとんクリーニング協会



オカバマーキングシステム(株)



一般財団法人  
 日本繊維製品品質技術センター  
 日本繊維製品品質技術センター



ホークン品質評価機構



東レインターナショナル(株)

## JBAの主力事業

1)ヘルスケア認定寝具®

2)睡眠環境・寝具指導士®(SBI)資格制度

3)GF (Good・Futon) マーク ふとん品質表示規程

4)J-TAS® 羽毛トレサビリティ監査システム

## ■委員会・事業部会の再設置にて、事業の活性化を図る

⇒委員会を設置し、各理事の委員長・副委員長任命

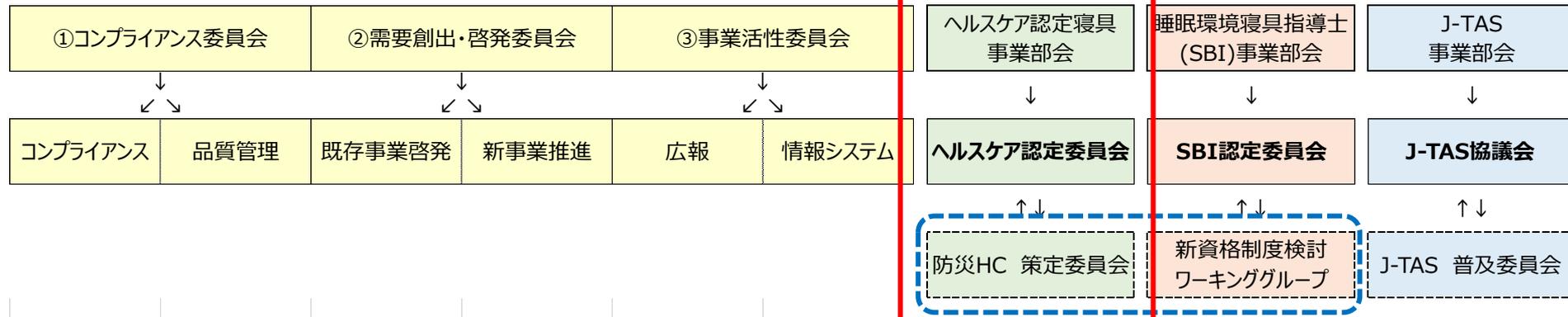
⇒12期より、事業部会内に

「**防災型ヘルスケア寝具 策定委員会**」及び「**新資格制度検討WG**」を設置

R7年度【第12期】 JBA 委員会・事業部

### 【委員会】

### 【事業部会】



### ◆運営スケジュール

	報告者		開催
総会	理事・監事	会員	6月
理事会（役員会）	専務理事	理事・監事	3月・10月
委員会 （小委員会報告会）	担当理事	委員	年4回
小委員会	事務局	委員、オブザーバー	適時

開催	試験日	開催	開催
認定 年2回	年1回	年6回	協議会 年1回 普及委員会 年2回
<b>3月/9月</b>	<b>8/7 (木)</b>		事務局 IDFLmtg 月1回

# ヘルスケア認定寝具® (抜粋) 「睡眠健康機能」



## 寝具の主な睡眠健康機能

(機能の概念ですので、詳しくは個々の認定製品説明をご覧ください)



経銷事業者ヘルスケアタイプラインロゴマーク JBAヘルスケア認定寝具ロゴマーク

良い眠りを得るための最も基本となる条件は掛ふとん、敷ふとん、枕を自分にあったものを選ぶことが重要。睡眠の質を向上させ、快適で健康な眠りをサポートする機能が備わっています。

**安眠・快眠で眠りの質改善**  
睡眠時のリズムを正しく整えて身体・脳・自律神経もゆったり休ませる眠りにいざなう

**疲労のリカバリー**  
睡眠中に身体と心の疲れをしっかり取り戻すようサポートし毎日の活気、活力の向上を図る

照明、エアコン制御、音響  
**スリープテック**  
睡眠状態をIoT技術などを活用し計測・記録・分析し、寝室を含めた睡眠環境をサポートするシステム

**血流への作用**  
温熱・浮力・圧着などで血流をよくすることで、筋肉のコリや体温低下の軽減をサポート

**生体センシング**  
生体センサーを内蔵させた製品で心拍・覚醒・就寝・寝返りなどの睡眠状態をクリアに可視化する

**腰への負担減少**  
寝姿勢・体圧分散・寝返り性の敷きふとんの3大支持性能で腰への負担が減り、楽な寝心地に

33±1℃ 50±5%RH  
寝床内環境  
**調温調湿**  
最適とされる寝床環境である温度33±1℃・湿度50%±5%を創出しようとする快適機能

15% 44% 33% 8%  
**体圧分散性**  
部位により重さが異なる身体を寝床でバランス良く分散し心地よく受け止める設計

**寝返り性**  
寝返りしやすい敷きふとんによって身体にかかる負担を軽減し、ふとん内の温度湿度を適度に調整

**肩と首の負担減少**  
頸椎はS字曲線を描いておりこの頸部中心に無理なく支える高さや形状を追求した枕

zzz...  
**いびきの減少**  
いびきにお悩みの方やご家族に睡眠中に呼吸しやすくすることでいびきを軽減する枕

**寝姿勢保持**  
直立時の背骨のS字曲線が寝床内でも保たれることで身体への負担が軽減する

**横向き寝**  
東洋医学では横向き寝のシムス体位が楽な寝方とされ呼吸しやすく腰への負担も少ない

COOL  
**接触冷感**  
暑さで夜中に目が覚めてしまう夏に身体が触れるとひんやり感覚寝やすい夜をさらっと心地よく最大熱吸収速度q-max値で評価

HOT  
**保温性**  
空気層で断熱効果を高めることで熱放出をしにくくする仕様構造。冷えの対処は暖めること。

**アレルゲンの低減**  
喘息・アトピー・花粉症などアレルギーの方に、要因となる繊維上のダニやハウスダスト・有害物質を低減する

寝具 体  
**吸湿発熱**  
身体から自然に蒸散する水分を繊維目が吸収して熱エネルギーに変換し発熱する、寒さに強い寝具



## ① ヘルスケア認定寝具 制度の経緯

- ・令和元年(2020年) 健康寿命延伸産業創出推進事業
- ・経産省「ヘルスケアサービスガイドライン等のあり方」を踏まえ基準を定める
- ・2020年第1版、2022年第2版、2025年第3版と改訂を行う  
→スリープイノベーションプラットフォームと連携

## ② ヘルスケア認定寝具制度の課題

- 1) JBA加盟企業内での周知不徹底 →需要創出啓発委員会の設置にて対策
- 2) 採用の企業においてメリットが不明瞭 →消費者への認知策実施 (事例紹介)
- 3) 経産省におけるヘルスケア自主宣言マークの周知不足
  - ・自己宣言マークを認定企業での使用不可 →R7年3月 改訂
  - 各企業HPでLP作成



### ③ ヘルスケア認定寝具 認定推移・普及活動

・登録数 88アイテム (R7年9月現在)

・採用企業 8社

→協会内で自社製造卸・小売業での活用が中心  
→協会組織率低さにて市場で認知されない現状  
→メリットの打ち出しにて企業加盟の促進策必須

・認定委員会 年2回 3月・9月

・ラベル発給制

・認定後、協会より下げ札を発給し貼付

→商標使用 (ロイヤルティ) 契約の実施  
店頭での消費者への認知策



## ④ ヘルスケア認定寝具 生活者認知に向けての活動 事例

### 西川(株) WEBサイト掲載、自社ECでの販売



本認定制度は、日本寝具寝具協会(JBA)が「経済産業省ヘルスケアサービスガイドライン等のあり方」を踏まえ、寝具業界における自主基準を定めたものです。科学的根拠に基づく**睡眠健康機能**、**衛生機能**、**メンテナンス機能**、企業社会性の4項目で評価され、基準をクリアした製品が健康保持及び増進、介護予防を通じた健康寿命の延伸に資する「ヘルスケア認定寝具®」として認められます。



健康機能や安全性などを証明する第三者検証機関等での科学的根拠を有する製品に「ヘルスケア認定寝具®」ラベルが付与されます。

睡眠健康機能

衛生機能

メンテナンス機能

### 西川(株) 認定商品をPRTIMESで広報



#### nishikawaの「医師がすすめる健康枕」と「Dots」シリーズが日本寝具寝具協会(JBA)が定めた「ヘルスケア認定寝具®」に認定

健康をサポートする寝具として認められました

西川株式会社 2025年6月26日 10時00分



写真右「医師がすすめる健康枕」シリーズ、左「Dots」シリーズ

西川株式会社(本社：東京都中央区日本橋 社長：菅野謙志、以下nishikawa)が展開する、「医師がすすめる健康枕」シリーズの6商品と、「Dots(ドッツ)」シリーズのヘルシーマットレスとヘルシーピローが、一般社団法人日本寝具寝具協会(英語表記: Japan Bedding Goods Association、以下日本寝具寝具協会)の「ヘルスケア認定寝具®」に認定されました。本制度は、日本寝具寝具協会(JBA)が「ヘルスケア認定寝具®」として、寝具業界における自主基準を定めたものです。評価基準を満たした製品が、健康保持及び増進、介護予防を通じた健康寿命の延伸に資する「ヘルスケア認定寝具®」として認められます。

「ヘルスケア認定寝具®」の認定は、睡眠健康機能、衛生機能、メンテナンス機能、企業社会性の4項目で審査され、健康機能や安全性などを証明する第三者検証機関等での科学的根拠を有する製品にラベルが付与されます。

#### 【新たに「ヘルスケア認定寝具®」に認定されたnishikawaの寝具】

##### ■「医師がすすめる健康枕」シリーズ

累計出荷個数530万個※を突破するロングセラーのまくらシリーズです。整形外科医とnishikawaの共同開発による後頭部・首・肩の三点を支える「三点支持理論」に基づいた立体設計で、理想的な寝姿勢を保ち、心地よい寝りをサポートします。肩こりや首のつらさ、横向き寝が多いなど、さまざまな寝りの悩みに対応する6商品を展開しています。

※2025年5月時点



(株)ロマンス小杉 WEBサイト掲載



ヘルスケア認定寝具

一般社団法人日本寝具寝装品協会（JBA）が定める寝具業界のヘルスケアサービスガイドラインは経済産業省のヘルスケアサービスガイドライン等のあり方を踏まえていることを宣言しています。



本制度は、日本寝具寝装品協会（JBA）が『ヘルスケア認定寝具』として、寝具業界における自主基準を定めたものです。評価基準を満たした製品が、健康保持及び増進、介護予防を通じた健康寿命の延伸に資する『ヘルスケア認定寝具』として認められています。

商品



認定No.A1241001  
 高級入浴毛布付A&A(クロスオーバータイプ)  
 抗菌防臭・吸湿性・保潔性・静電防止・吸湿発熱  
 防臭い物・再生性・ソフト性



認定No.B2211006  
 ロマンスエコー  
 吸湿性・抗菌防臭  
 抗菌 (防臭)  
 硬軟性・柔軟性・耐久性



認定No.B5230503  
 ムートンシェン (38mm)  
 寝への負担減少・体圧分散・寝向改善が楽  
 防ダニ  
 再生性



認定No.B5230505  
 ムートンシェン (35mm)  
 寝への負担減少・体圧分散・寝向改善が楽  
 防ダニ  
 再生性



各加盟企業での業界共通のマークの露出アップにて、生活者に気づいていただける活動の実施

# まくら(株) WEBサイト掲載



## ヘルスケア認定寝具とは？科学的根拠に基づいた寝具選び

ヘルスケア認定制度は、日本寝具寝装品協会(JBA)が「経済産業省ヘルスケアサービスガイドライン等のあり方」を踏まえ、寝具業界における自主基準を定めたものです。科学的根拠に基づく睡眠健康機能、衛生機能、メンテナンス機能、企業社会性の4項目で評価され、基準をクリアした製品が健康保持及び増進、介護予防を通じた健康寿命の延伸に資する「ヘルスケア認定寝具®」として認められます。



健康機能や安全性などを証明する第三者検証機関等での科学的根拠を有する製品に「ヘルスケア認定寝具®」ラベルが付与されます。



# まくら(株) 認定商品をPRTIMESで広報



THE PILLOWがJBAヘルスケア認定寝具に認定。日本寝具寝装品協会により、健康保持・健康増進を図り、健康寿命の延伸に資する製品として、経済産業省のガイドラインを踏まえ、認められました。



枕をはじめとする寝具・睡眠グッズの企画開発、及びインターネット販売を行っている、まくら株式会社(千葉県柏市、代表:河元啓行)が販売する、オンライン上で睡眠や枕に関する18問の質問に答えることで、70万通りの中から自分に合った最適な枕を提案・作成できるパーソナライズ枕「THE PILLOW(ザピロー)」が、「JBAヘルスケア認定寝具(TM)」に認定されました。



JBAヘルスケア認定寝具制度は、一般社団法人日本寝具寝装品協会が「経済産業省ヘルスケアサービスガイドライン等のあり方」を踏まえて、寝具業界における自主基準を定めたものです。

睡眠健康機能、衛生機能、メンテナンス機能、企業社会性の4つの審査項目に加え、健康機能や安全性などを証明する第三者検証機関等での科学的根拠が評価基準となります。評価基準を満たし、睡眠による健康保持、健康増進を図り、介護予防を通じた健康寿命の延伸に資する製品が「JBAヘルスケア認定寝具(TM)」として認定されます。

各加盟企業での業界共通のマークの露出アップにて、生活者に気づいていただける活動の実施

### ⑤ 防衛省（官公需）での入札案件に条件付帯

- ・陸上自衛隊での隊員への寝具環境の改善に向けた物資供給。
- ・2025年 防衛省の入札案件にJBAヘルスケア認定寝具条件にて、会員企業がマットレスの大口受注。2026年も追加の入札となる。

### <仕様書抜粋>

#### 2 一般的事項

一般的事項は、次による。

- a) この製品は、（一社）日本寝具寝装品協会（JBA）の認定及び（一社）繊維評価技術協議会の製品認証（SEKマーク）を受けなければならない。

#### 6.1.2 提出書類

提出書類は、調達要領指定書によって指定する場合を除き、表4とし、契約の相手方は、契約締結後速やかに 陸上自衛隊補給統制本部需品部へ1部提出する。ただし、過去に納入実績があり、前回納入時と変更がない場合は、省略してもよい。

表4-提出書類

名称	摘要
取扱説明書	GLT-CG-Z000001の7.1 a)による。
試験結果報告書	製品硬さ、復元率及び通気性について、第三者機関による試験結果とし、試験方法は、調達品目表A～調達品目表Cによる。
認定番号通知書	<u>JBAヘルスケア認定寝具<sub>TM</sub>認定委員会が発行した通知書</u> の写しとする。

# 【防災型】ヘルスケア認定寝具ガイドラインの策定に向けて（草案）



## ヘルスケア認定寝具®制度【防災対応】評価項目（案）

2025/11/26

### 1) 基本方針

ヘルスケア認定寝具®制度【防災対応】ガイドラインは、災害時における避難所等にて「最低限の健康的な（健康を妨げない）機能寝具の提供」を目的とする。

また、評価項目の検討においては、各社で測定が容易な手法やツールを用いることとする。

### 2) 現在の検討案

防災ヘルスケア寝具 評価項目案/推奨項目案を表1に示す。

表1 評価項目案/推奨項目案

ヘルスケア認定寝具 審査項目	防災ヘルスケア寝具 機能項目		防寒 推奨項目
	敷き寝具	枕	掛け寝具（布団/毛布）
(1)睡眠健康機能	体圧分散性 体圧測定器  寝返り性 測定装置検討	肩(首)負担が減少 高さ調整機能	保温性(clo値)によってレベル分け 各社がレベル毎に主商品を定める レベル1：clo値(●以上) 【室温0℃以下】 レベル2：clo値(●未満～▲以上) 【室温△℃以下～0℃超】 レベル3：clo値(▲未満～◆以上) 【室温△℃超】
(2)衛生機能	カバーで対応 制菌 or 抗菌	カバーで対応 制菌 or 抗菌	カバーで対応 制菌 or 抗菌 ※カバーが無い場合、本体で対応
(3)メンテナンス機能	カバーで対応 ○防災 ○防水 or 速乾	カバーで対応 ○防災 ○防水 or 速乾	カバーで対応 ○防災 ○防水 or 速乾 ※カバーが無い場合、本体で対応
災害対応機能 必須もしくは任意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収納性</li> <li>・圧縮梱包（任意）</li> <li>・軽さ</li> <li>・備蓄の耐久性</li> <li>・段ボールベッドと合うこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収納性</li> <li>・圧縮性（任意）</li> <li>・備蓄の耐久性</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収納性</li> <li>・圧縮性（任意）</li> <li>・備蓄の耐久性</li> </ul>
備考			織物・編物構造、または中綿（わた）を充填した多層構造を有するものに限り、金属蒸着フィルム（アルミシート等）や単層不織布シート等（使い捨て毛布、薄手不織布ブランケット等）は除く

## 認証の製品付帯（案） （QRコードネーム）



## •深刻な現状:被災地の避難時における「災害関連死」

能登半島地震では、関連死が直接死の2倍超(475名/228名)。

関連死の35%以上が避難所環境に起因。

「雑魚寝」「低品質な使い捨て寝具」が被災者の健康を蝕んでいる恐れ。

## •国の動き:防災庁の発足予定(2026年11月)

寝具や段ボールベッド、テント等の詳細な手配・基準策定は未着手。

地方自治体単位での物資調達が標準化に至らない実情。

## •JBAの認識:

単なる「数量の確保」や「流通品の供給」ではなく事前の備蓄体制(規格化・標準化)

国際的な「スフィア基準」や「TKB48」の考え方に基づいた、**質の高い睡眠環境の提供**が寝具業界の社会的責務である。

100年たっても変わらぬ「避難所」を変える



1930年の北伊豆地震の避難所  
毎日フォトバンクより提供

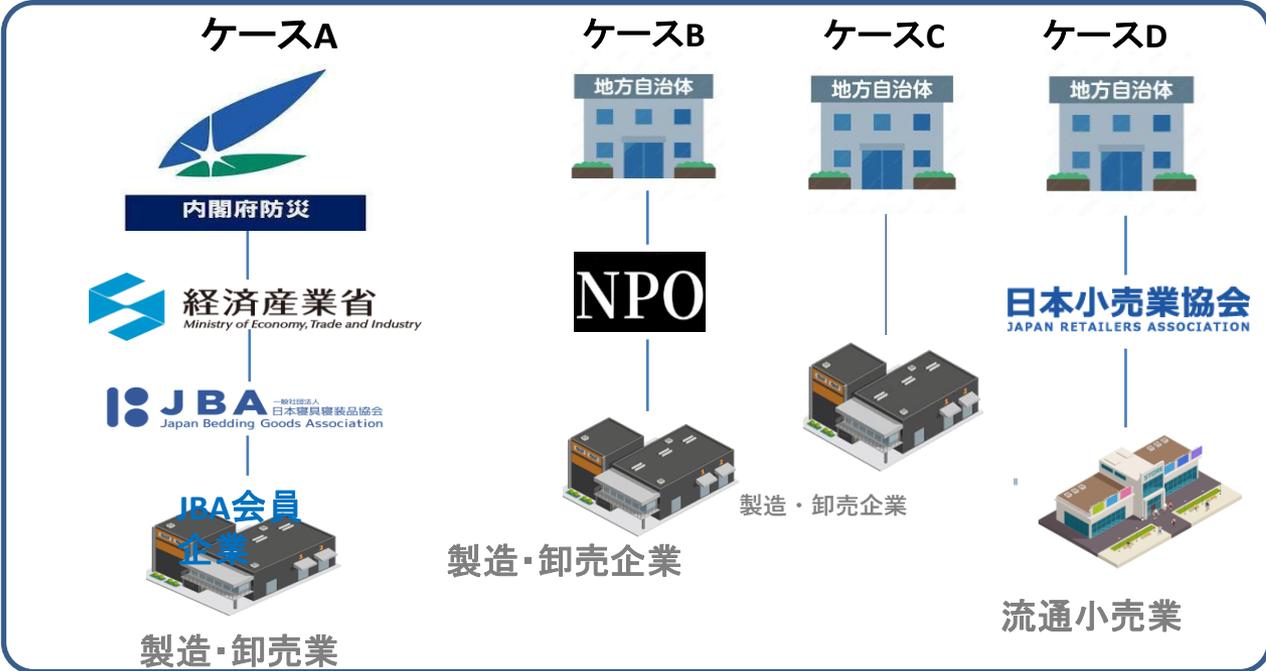


2016年の熊本地震の避難所  
松川杏寧氏より提供



○令和6年能登半島地震

《緊急災害支援物資調達フロー》



いしかわ総合スポーツセンター (1.5次避難所)



《サイズの統一の必要性》

寝具寝装品 (敷きふとん、フローアマトレス) 日本寝具寝装品協会		木製ベッド及びマットレス 全日本ベッド工業会	段ボールベット 全段連 (東段工) 推奨規格	避難所区画サイズ及びテント 東京都建築士事務所協会	エアベッド
100×200cm (S) 100×210cm (SL)	97×195cm (S)	約97×約195cm (S)	97×195cm (天板)	200cm×200cm	サイズ多種多様
和タイプ	マットレスタイプ (能登に500本納品)  <b>注) その他サイズの多種大小あり</b> 91×192cm (能登に200本納品) 90×200cm (板橋区備蓄用)	ベッドマットレス (スプリングコイル等)	48×64.5×34cmを6個  <b>注) その他サイズ多種大小あり</b> 90×190cm	<b>キャンプ用等 180cm×180cm〜</b>  面積の目安 一般(個人) 4㎡/人、扇形開仕切り 一般(2-3人家族) 2.5-3㎡/人、扇形開仕切り 一般(4人家族) 2.5㎡/人、扇形開仕切り 高齢者等 6㎡/人、扇形開仕切り+ベッド 妊婦 6㎡/人、扇形開仕切り+ベッド 障がい者-要介護者 9㎡/人、扇形開仕切り+ベッド	91×192cm 76×185cm

# 寝具の標準化とパッケージ化による「避難所改革」

- 2つの柱：
  1. 製品機能・仕様・規格の標準化(【防災型】ヘルスケア認定寝具)
    - ・ 段ボールベッド、居住区切りテント、敷きふとんのサイズ・機能基準を統一。
    - ・ 仮設住宅まで継続使用できる最低限必要な品質の仕様へ。
  2. 避難所設置運用のパッケージ化(事前備蓄に対応)
    - ・ イタリア式(TKB48)を参考に、迅速に展開可能なユニットとして整備。
- 具体的アクション：
  1. 内閣府(防災庁)および関連業界(段ボールベッド・テント業者等)との強力な連携。
  2. 「使い捨て」から「リユース(クリーニング活用)」へ転換し、ゴミ問題も解決。

## イタリア式避難所システムの導入

※イタリア式避難所システム

イタリアで実施されている被災者支援の方法のこと。

発災から48時間以内に、あらかじめ備蓄された資機材等を活用して支援拠点を設置し、訓練された支援者が支援活動を行う。

被災者数に応じて支援単位が決定されている(1単位:被災者250名に支援者50名を投入)。

T = トイレ、シャワー  
衛生



K = キッチン、食堂  
食と栄養



B = ベッド、間仕切り  
睡眠



避難所・避難生活学会理事 水谷嘉浩氏 講演資料より一部抜粋

## (後日の避難所) いしかわ総合 スポーツセンター

使用済みの廃棄が250~300枚ほどあり、処分方法に苦慮  
嘔吐・失禁などの跡もあり感染対策を踏まえると再利用は困難。  
サブスクの仕組みを利用して上手く循環できないか。  
災害備蓄として地方拠点(道の駅など)を利用して平時はサブスク、有事に支援物資化するスキームなども検討の余地あり。

